

【研究概要】

進行乳癌は予後不良であり、通常術前化学療法が適応となる。アントラサイクリン系とタキサン系抗がん剤の両者が選択され、腫瘍切除前に術前化学療法を6カ月間実施するよう推奨されている。そこで進行乳癌に対して術前化学療法前後で特異的に発現してくる遺伝子変異をみることで、予後に与える影響を検討する。これは多施設共同で前向き試験として解析し、バイオマーカーを探索する。